

# 生きいき憲法

日比谷京子



2012年10月5日(日) 生きいき憲法 第24号

## 協同行動主義の世界へ向かって

端山好和

「独立国は自衛権を持っているのだから軍隊を持つのが当然である」という意見がある。この意見は19世紀以前なら極めて真つ当な意見であった。しかし、今や時代遅れの意見となった。アメリカの法学者グループが成文化された世界188ヶ国の憲法を1946年から2006年まで、各国憲法の改正や独立国の新憲法をチェックし、国民の権利とその仕組みを项目的にデータ化、国際的变化を年代別に明らかにした。

諸々の権利が1946年時点・2006年時点でどう変わっているかを比べると、20の権利のうち1946年には8～83%の権利しか成文化されてなかった権利が、2006年には80～97%の権利が成文化されているなど著しい進歩が認められた中で、戦争する権利は10%から2%の国へと減少し、今や消滅寸前の権利となった。彼らは「日本国憲法が今も世界最先端の憲法であるのに比べアメリカの憲法は時代遅れになってしまった」と嘆いた。

アメリカが「単独行動主義」にどっぷり浸かって、ブッシュが「この美しい国を守るためには地の果てまで死と戦争を輸出する」と嘯いているうちに、世界はBRICS・上海協力機構・南米南部共同体・米州ボリバル共同体など



の共同体が出来て、話し合いで平和を守ろうと「協同行動主義」の世界へ向かって動き出している。

日本国憲法前文は「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と悲壮な決意を謳った上で、「国際社会において名誉ある地位を占めたい」という。アメリカの言いなりになっていてそのような地位を得られる筈はない。

アメリカの「単独行動主義」とは決別して、世界の趨勢となりつつある「協同行動主義」の世界に仲間入りする以外に、憲法が謳う理想を実現する道は決して開かれない。憲法が指し示す道を歩むのか、アメリカの言いなりの道を歩むのか、選択は決まっている。

(はやま・よしかず：東京農業大学名誉教授)

## 東京の「九条の会」大交流会を終えて

◇九条の会東京連絡会・事務局◇

1 2012年7月1日、港区内の正則高校において、東京の「九条の会」大交流会が開かれました。九条の会東京連絡会が11年5月に提起した以降、実行委員会を毎月開催し(14回)、プレ企画「憲法審査会などにみる改憲動向の特徴と私たちの課題」(4月26日、高田健氏)、「この国はどこへ向かおうとしているのか」(5月28日、坂本修弁護士、上条貞夫弁護士)の学習を行ったうえ、①改憲派の動きに対する「草の根からの反撃」をどう構築していくか、その条件はどこにあるか、②改憲反対の運動と原発・消費税・比例定数削減・秘密保全法・TPP参加・橋下ファシズムなどを許さない運動をどのように結合・発展させていくか、そこで「九条の会」が果たすべき役割は何か、③以上の課題を追求する中で「九条の会」が克服すべき問題点は何か、活かすべき到達点は何か、を目標として、午前10時から午後4時半まで開かれました。

2 全体会は午前中に体育館で、活動するアイドルグループ制服向上委員会の登場で開幕。「ダッ!ダッ!脱・原発」など歌5曲と踊りには、“女子高校生が九条の会に関心を持ち、迫力ある歌と踊りで我々に訴える姿

に感動した”“体いっぱい平和を歌い、政治批判を展開する彼女らに拍手!”“若さあふれるトークと歌声、今の若者、捨てたもんじゃないと思った。老骨をはげましてくれた。ありがとう”等々、若い彼女たちの元気で力強いメッセージは参加者に大きな感動を与えました。

続く渡辺治一橋大学名誉教授の講演「憲法を日本のチカラに!」は、①私たちは今どこまで来たのか、今どこにいるのか、②野田政権は何をやろうとしているのか、③憲法が活きる社会をつくるには～憲法をチカラに!の3部構成で90分に及び、“9条運動が果たしてきた役割、到達点が理解でき、励まされた。同時に3.11以降はまさに改憲勢力との綱引きにある現在の情勢も理解を深めた。

原発ゼロ、TPP阻止は、党派を超え、要求で一致でき、改憲勢力を迫りつめていく展望があり、確信の持てる講演だった”“徴兵制のない日本国の青年たちが戦地へ動員されることのない幸せを実感できていない話、にもかかわらず一方では反原発で青年たちに限らず首相官邸包囲の行動に立ち上がっていることの意味も改めて認識した”等々、勇気と展望そして課題を

確信できたとの感想が多数寄せられました。

午後からは各教室で3つの分散会、および「若者・高校生—伊藤真さんと語ろう」「教科書・こどもの教育を考える」「徹底討論・次世代への継承」「新しいメディアと九条」「伊藤千尋さんと語ろう “9条を世界へ”」「東アジア共同体と内外情勢」「いま沖縄を考える」「橋下ファシズムを考える」「横田基地撤去へ」の九つの分科会と「DVD脱原発」上映会が開かれ、交流と上記1の目標について討議を深めました。

3 渡辺講演と討議を通して、参加者は次の重要な視点を確認することができました。平和と反貧困の国民運動が改憲の策動を押し止め、政権交代まで実現したこと。しかし財界とアメリカの猛烈な巻き返しで民主党政権は変質し、野田政権は消費税・TPP・原発・比例定数削減、そして改憲という構造改革推進と軍事大国化を「大連立」で強行しようとしていること。改憲案ラッシュは、08年には多数を占めた改正反対が12年3月の世論調査(読売新聞)では30%対54%と逆転したことを背景にしているから、「憲法改正」が大連立の条件となることは間違いないこと。

民主党のこれ以上の変節を許さないためには、地域を拠点に、憲法をチカラに、大きな輪を作っていくことが求められている

こと。防衛官僚だった新潟県加茂市の小池清彦市長は「自衛隊を人殺しの軍隊にしない」ため九条の会のおよびかけに賛同し、その後も市町村合併反対、県立加茂病院の産科廃止反対、「日本一の福祉の町」をめざした結果、昨年の5期目は無投票当選と地域は変わったように、反動的逆流には良心的な保守層および社会運動の新たな波を輪にして、「9条と25条が生きる社会」を積極的に掲げて国民の中に訴えていくこと。

今の若者は「憲法が活かされていない社会」の最大の被害者であるが、若者だけでなくすべての階層の苦しみの根源は「憲法が活かされていない社会」にあること、したがって今日の最大の課題は「憲法が生きる社会」をつくるにはどうしたらいいかにあること。そのためにも「九条の会」は自分の地域をよく見て憲法が本当に活かされているか点検し、憲法という国民に与えられた武器を使って地域を変える巨大な波をつくり上げていくこと。

「憲法をチカラに」幅広い層とのつながりこそ逆流を押し流す力であること。それが「九条の会」が地域に根をおろすということであり、九条の会は高齢者が自分たちの力で改憲を阻止しなければならないとの思いから立ち上がり、若者の悩みは雇用と就職にあり「9条」ではないが、その中で自分たちが立ち上がらないと原発を止めること

はできないとの思いから参加層が拡大していること。「憲法が活きる日本！」の前進は改憲阻止の大きな力となること。

4 当日、700名を超える人々の参加が都内のほとんどの行政区から得られたことは（不参加は1区2市2町1村および島嶼）、確認できた上記の重要な視点を広く伝えていくためにも、東京中を網羅する「九条の会」の運動を推し進めていくためにも、大きな力となりました。

また、2010年11月に東京連絡会が呼びかけて行った「東京・9条まつり」では、参加者は戦争の悲惨さや基地被害の実態を直視して平和の尊さを再認識し、憲法が保障する豊かな人権を活かすことこそ平和の礎であることを嘯みしめ、9条をま

もるために今後何ができるか、何をしなければならぬかの決意を新たにしました。

さらに、2011年12月の「さようなら原発。平和・9条—音楽と講演のつどい」では、「人間らしく生きたい」「安心して働きたい」「平和のうちに生存を」が切実な要求となっており、憲法が生きづく社会の実現へ向けた「大きなうねり」をつくり上げていくことを参加者は確認しました。

この決意と確認は今回の大交流会を通して、さらに強固かつ内実豊かなものとなり、今こそ「九条の会」の「出番」であることを参加者全員が確かめたことでした。

以上

☆

## 九条の会東京連絡会 緊急大学習会

☆

民主・自民の「顔」選びと維新の会で、改憲派勢ぞろい。どうなる？「原発」「オスプレイ」「消費税」「TPP」……。どうなる？日本国憲法第9条 どうなる この日本！  
共に学び、考え、行動するために集まろう！

講演：「どうなる この日本」～強まる改憲策動とその狙い～

講師・小森陽一さん（九条の会事務局長、東京大学教授）

歌：真子 masakoさん

と き：10月29日（月） 開場・18時 開会・18時20分

ところ：全国教育文化会館・エデュカス東京 7階ホール（地下鉄・有楽町線「麴町」駅下車）

参加費：999円

	<p><b>日本人中国残留孤児を育ててくださった養父母に感謝する日中友好交流から帰って</b></p> <p>山口義夫（下町人間・天狗講九条の会代表世話人）</p>
--	--

(1) 尖閣列島問題で事態が緊迫下、憲法9条改悪、再軍備が声高に叫ばれる中、9月7日から13日まで、15人の代表団とともに敗戦時、日本人中国残留孤児を守り育てて下さった中国人養父母に感謝する第20回日中交流会に副団長として参加してきました。この日中友好交流は1993年に始まりましたが、途中支援者の中心であった宇都宮徳馬さんが亡くなり、衰微消滅の危機を乗り越えるために下町人間の会が下から支えてきました。

(2) 北京では故宮と1932年・中国侵略拡大が始まった盧溝橋と中日戦争記念館を見学し、ハルピンでは養父母の家庭を訪ねて懇談しました。そして黒竜江省人民政府と赤十字代表、養父母・残留孤児連絡会との交流会に出席しました。

戦後奥地からハルピンに引き揚げてきたが、帰国する列車もなく、開拓団が集結したがソ連軍に追尾され、女を出せと迫られてそのソ連兵を殺したために総攻撃され、5千人が婦人・子供・老人を逃すため特攻出撃して死亡し、5千人がレイプ等で自決し、最も多くの残留孤児が生れた方正県の開拓団跡地を訪ねて懇談しました。

(3) ハルピンに戻って日本軍が生体実験を行った731部隊跡地につくられた残留孤児養父母記念館を訪ねました。日中両国の怖ろしい記憶より、人間として協力した記憶を大切に、共に未来をひらきましょう、と説明されました。そして今も日本に親近感をもっている大連と旅順の史跡を訪ねて懇談し帰国しました。

(4) 20回に及ぶ残留孤児の養父母慰問日中友好交流会の成果として、裁判によって帰国した残留孤児の生活を改善し国家補償を獲得することによって人間として養父母の病氣見舞等の相互交流ができるようになりました。

そして、お互いの人間性を大切にする記念館がハルピンに完成したことをあげることができます。

憲法九条を守り、尖閣列島をめぐる領土紛争を平和的に解決する根本的な力がここにありません。

自主・独立・平和の相互協力を尊重する東アジア共同体の繁栄を生み出す基本はこの庶民の相互交流にあります。私たちはこの運動の中心を担ってきた東京中国歌舞団の劉錦程団長と歌手の楊二蓮さんに11月18日、浅草寺伝法院で下町人間庶民文

化賞を贈ることにしました。皆様のご参加をお待ちしています。  
.....

**今、民主主義が試されるとき**

**「九条の会」講演会**

9月29日(土)午後、日比谷公会堂で、九条の会講演会が「三木睦子さんの志を受けついで—今、民主主義が試されるとき」と銘打って開かれ、全国各地から1,800人が参加。自民党が安倍晋三元首相を総裁に再選し、「日本維新の会」と改憲で連携の動きのとき危機感が強まる中での講演会となりました。

**憲法学習会の連続開催**

この日、開かれた「九条の会」呼びかけ人会議での内容が、最後に小森事務局長から報告されました。

集団的自衛権の行使容認、明文改憲の動きが強まる情勢のもと、来年は全国交流集会を行わず、学習と対話活動が重要になっているもとの、呼びかけ人を先頭にした憲法セミナー、「九条の会」事務局主催の学習会を連続して開催することを決めました。

同時に、全国津々浦々で、草の根の学習会を連続して開いていくことを呼びかけました。そのうえで、来年の秋に、憲法についての大きな学習討論集会を開くことにしました。



<p>☆東京大交流会☆</p> <p>第 16 回実行委員会（総括会議）の記録</p>	
---	--

9月10日(月)午後6時から、けんせつプラザ東京において「7.1 東京大交流会」の第16回実行委員会（総括会議）が開催されました。参加者は25人でした。

最初に島田修一事務局長から以下の報告がありました。

(1) 9月29日の九条の会講演会について。小森陽一さん(九条の会事務局長)からの手紙を代読して、参加のとりくみを広げることを確認した。またスタッフが多数必要となるので、東京にある九条の会として積極的に協力したい。

(2) 7月1日に開催した東京大交流会について、総括文を提案した(総括文は2頁参照)。

(3) 今後の活動について。小泉～安倍内閣時の改憲策動を国民の運動が押し止めたことは9条運動の大きな到達点だが、いま、消費税増税・TPP参加・原発再稼働・比例定数削減、そして9条改憲を「大連立」で強行しようとしている。これを許さないために「地域」に、「憲法がいきづく社会」を「憲法を武器」に「幅広い層」とつながっていく必要がある。具体的には次のような活動を提案したい。

㊦ 空襲・戦災など戦争の惨

禍を語り継ぎ、繰り返さない思いをひろげる活動。

㊧ 戦後、日本は9条によって平和の国際貢献をしてきていることを語り広げる活動。

㊨ 地域、職場、学園で憲法25条が活かされているか、対話と学習を広げ、9条とつなげる活動。

㊩ 東京全体にネットをひろげ、事務局体制を強化する。

◇

以上の報告を受けて、自由に討論しました。議論の内容は大きく3つにまとめることができます。

第一は、各地の九条の会の取り組みを紹介しあいました。あきる野九条の会からは10月27日に行われる福生市民会館での「横田基地もいらない！市民交流集会」への取り組みが報告されました。大田九条の会からはブックレット『未来に伝える大田の平和』を製作していることが紹介されました。八王子では10月6-7日に「平和を愛する文化祭」が開かれ、6日には学生もまじえた市内の九条の会の共同企画も催されます。在日韓国人の九条の会を作りたいという声も出されました。

第二に、東京全体に9条運動をネットワークをひろげるといふ提起に関わって、西東京市で

も休眠中の会に声をかけ、また新しい会を立ち上げるなどして、連絡会としての9条運動を活性化しようとしている。さらに青梅、福生、西東京の九条の会の事務局長はそれぞれの会の事務局に入り、3つの会が相互に緊密に連絡を取り合える体制にしたことも新しい工夫のひとつとして紹介されました。

第三に、国会解散・総選挙が近いが、民主党・自民党・公明党に維新の会など、改憲を掲げた政党が連合して打って出ることが予想される。

こうした情勢についての学習会が必要だという提起があり、またその学習会を各地で開いていくことを運動化する必要があり、東京連絡会は講師派遣するなどのサポートをするべきではないかとの意見も出されました。

他方、そうした改憲策動批判も大事だが、それだけでは受動的なので、もっと能動的に歴史を振り返りつつ、現憲法の価値を押し出しひろげるような運動が大切だとの意見も出されました。

大交流会の実行委員会としては今回で終わりとし、次回から今後の運動を考える懇談会とします。次回懇談会は、当初10月29日(月)に開催する予定であったが、緊急大学習会を開催することになったため、懇談会は11月に開催することになります。(平野・記)

**\*九条の会・紹介\*\*\***

**.....法政大学Ⅱ部OB九条の会**

私たちは暴力反対、日本国憲法9条の精神を世界に広げるために「九条の会」を結成したのです。

「いま官邸前。少し涼しくなりました。来られた方は声をかけて下さい」ー金曜の夕方、携帯にメールが届きます。

各々ができることをやり、仲間を誘う、そのような実践スタイルをモットーとしています。

**●学生時代の繋がりで**

職場でもなく、地域でもない学生時代のつながりを活かしてゆるやかな「九条の会」、それが私たちの「法政大学Ⅱ部九条の会（OB）」です。

「数ある九条の会の一つとして暴力で物事を解決させないために、そして日本国憲法第九条の精神を世界に広げるために」（結成趣旨から）。

「団塊世代」が中心ですが、上は70歳前後から50代まで、少しずつ増え、結成2年余で3ケタになっています。

**●「反戦平和、暴力反対」！**

私たちが学生だった1960年代から70年代は、東大闘争だけでなく私学でも学園民主化の運動が広がっていました。クラスやゼミ、サークル等から教育制度改悪反対、反戦平和を求めてベトナム反戦運動や安保条約に

反対する行動に、学生自治会の呼びかけで行動していました。

一方、暴力で主張を通そうとする「全共闘」が新左翼と呼ばれる暴力集団と一体になって、学生を襲うということも日常化していました（筆者もクラス討論で暴力反対を口にしたことから集団のテロにあっています）。

重体になり死線をさまよう大怪我をした学友を、それ以来支える活動を続けていますが、その40年の集いの2010年4月、百人を超す参加者の賛同で、この会が発足しました。

**●団塊世代よ、死ぬ前に闘え**

メンバーの多くが“あうん”の呼吸で胸に納めている言葉が大原社会問題研究所・元所長の五十嵐仁氏のブログ『転成仁語』に載った言葉「団塊世代よ、死ぬ前に闘え」です。

既に職場や地域などで九条の会などの活動をしているメンバーが多い一方で、運動に参加する機会を持たない者も結構いることも現実です。そういうことから、「屋上屋を架す」ことのない活動のあり方を常に考えながら、歩みを進めています。

**●救援要請で被災地支援も**

東日本大震災では、郷里に戻った学友の一人、岩手県の医療関係の労働組合役員からの救援要請に敏感に反応し、早速カン

パでガスタービン式の発電機を送りました。

支援物資を職場で集め、トラックを徹夜で運転して現地に運ぶ者を筆頭に、カンパでワゴン車数台に物資と人員を積み込んで5月、8月、12月と岩手の大船渡市と陸前高田市に派遣し、現在も自分の地域に必要な物資を集めて送り続ける者あります。

職業も様々で各分野の専門家も揃っているため、ネットワークを駆使し、その気になれば何でもできそうです。心意気とやる気は、年齢と体力のハンディに負けないようです。

**●原発も命の観点から「×」**

原発に対しても、50基以上の存在になるまで放置してきた反省が言葉として出てきます。

「原発いらない、命が大事。子どもを守れ」に賛同です。

平和のうちに生きる権利とは生命第一の思想ですから、九条そのものでしょう。

集会・デモには子どもや孫と一緒に参加するメンバーも。

大学で学んだことを現実に活かしていくことを、改めて心に刻み、楽しく交流していきたいと考えているところです。

（文責・山田幹夫）



写真＝大学がある懐かしいJR飯田橋駅頭で宣伝と署名活動も

大田九条の会がブックレット発刊

## 平和・憲法・9条の輝き満載「未来へつたえる大田の平和」

大田九条の会は10月1日に大田平和ガイドブック「未来につたえる大田の平和」(A5判全104ページ)を発刊しました。

- 15年にわたる戦争はなぜ起こったのか
- 戦中・戦後大田区の住民はどんな暮らしや被害を経験したのか
- 見慣れた町のどこに軍需工場などがあったのか
- そして戦後人びとが願った平和の記念碑はどこで見ることが出来るのか

などを盛り込んだブックレットです。もちろん、

- 日本国憲法・9条はどのようにして作られたのかも分かりやすく載せてあります。

大田区で九条の会運動を発展させるために役立つ何かを作りたい、そんな思いで昨年5月ごろからスタートした編纂作業がこうして実を結びました。多くの国民の心の底からの願いを無視して進む憲法・9条改悪の審議や、歴史の事実から目をそむけさせるような育鵬社の歴史・公民教科書採択という逆流が強まっています。その中で「日本政府が起こした戦争だった」「政治家たちは戦争を止められなかった」「侵略・虐殺・人権じゅうりんは確かにあった」という紛れもない事実を具体的に紹介して、平和の尊さ・9条の価値を深く理解する格好の1冊になるでしょう。

写真・資料・戦争体験証言なども豊富です。大田区内に長年住んでいる人でさえ知らなかった事実も満載です。それでいて小さなバッグに入るくらいの手ごろなサイズ。大田区以外の地域や多くの九条の会運動にとっても参考になると思います。

.....

- A5版：104ページ(本文)
- 頒布価格は500円です。
- ご希望の方は大田九条の会事務局へご連絡ください。  
〒146-0085 東京都大田区久が原5-15-1-101  
電話&FAX 03(3754)7405  
または、大田九条の会ホームページからメールソフトで。

.....

**各九条の会のみなさん** みなさんの会でも大田九条の会を参考に取り組んではどうでしょうか。また、このような活動をされているところがございましたら、東京連絡会にぜひお知らせください。

\*\*\*\*\*  
**各「九条の会」とりくみ紹介**  
\*\*\*\*\*

10月10日(水) 18時30分～  
講演：ハシズムって何なの？  
人心を操る手口に迫る  
講師 小森陽一氏(九条の会事務局長)  
会場 中野ゼロホール  
主催 九条の会・中野、土建中野九条の会

10月13日(土) 18時30分～  
第13回学習会  
「低線量放射線のリスクは、なぜ過小評価されるのか？」  
講師 崎山比早子氏(国会・福島第一原発事故調査委員。医学博士)  
会場 エデュカス東京  
主催 商社九条の会・東京

10月14日(日) 13時30分～  
学習会：「領土問題を考える」  
講師 丸浜昭氏(歴史教育者協議会事務局長)  
会場 駒沢地区会館  
主催 世田谷区 弦巻・新町地域「九条の会」

10月19日(金) 18時40分～  
2012 杉並・憲法の夕べ  
「憲法をチカラに、希望のもてる日本を」  
お話 落合恵子さん  
うた 制服向上委員会  
会場 杉並公会堂大ホール  
資料代 前売り1,000円  
当日1,200円  
主催：「9条の会・杉並」など実行委員会

10月19日(金) 18時30分～  
すみだ九条の会7周年の集い  
ゲスト 松元ヒロ氏(コメディアン)  
会場 曳舟文化センター  
2階レクホール

10月20日(土) 13時30分～  
講演: もっと知りたい在日コリアンの今  
講師 金 竜介弁護士  
会場 千代田区内神田集会所  
資料代 1,000円  
主催 法政大学Ⅱ部九条の会

10月21日(日) 14時～  
大田九条の会  
結成7周年記念講演会  
講演: 憲法最前線『今、憲法審査会で起きていること』  
講師: 高田 健氏(九条の会事務局)  
会場: 大田区民プラザ

10月21日(日) 14時～  
「なぜサイゴンは無血解放されたのか」  
講師: 木谷八土氏(日本ベトナム友好協会都連会長)  
会場: 落合第二地域センター  
主催: 新宿区落合・中井九条の会

10月27日(土) 14時～  
講演 『『平和利用』な一んちやって! ヒロシマとナガサキそしてフクシマ』  
講師 アーサー・ビナード氏  
会場 平和と労働センター  
参加費: 1,000円  
主催 銀行九条の会

10月27日(土) 10時～  
横田基地もいらない!  
沖縄とともに声を上げよう  
市民交流集会  
午前 10時～ DVD上映  
午後 1時～  
講演: アメリカの言いなり日本、日米安保の虚構  
講師: 孫崎亨氏(元外交官)  
会場: 福生市民会館  
主催: 横田基地もいらない! 市民交流集会実行委員会

11月3日(土) 13時30分～  
世田谷区代田・九条の会4周年のつどい  
お話: 私たちは幸せになるために生まれて来た  
朴慶南さん(作家)  
三線演奏 渋谷がじゅまる  
会場 東京都民教会(下北沢駅下車)  
参加費: 500円

11月3日(土) 13:30 開場  
講演 「日米“密約”外交と人民の闘い 米解禁文書から見る安保体制の裏側」  
講師 新原昭治氏(軍事問題研究者)  
歌 普天間かおりさん  
会場 麻布区民センター  
主催 みなと・9条の会

11月10日(土) 10時～  
憲法問題学習会  
講師 金子 勝氏(立正大学教授)  
会場 桜上水南地区会館  
主催 世田谷区九条の会・まつざわ

11月10日(土) 14時～  
九条科学者の会講演会  
日本の政治はどこへ向かうかーアメリカ大統領選挙後の世界と日本  
講師: 浅井基文氏(元外交官、元広島平和研究所長)  
会場: 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー  
10階 1105教室  
資料代: 500円

11月30日(金) 18時30分～  
音楽と講演の夕べ  
講演: 『はだしのゲン』を語り続けて  
講師 神田香織さん  
演奏: アンサンブル古都  
会場: 滝野川会館大ホール  
会費: 1,000円(中高生無料)  
主催: 輝け憲法! 北九条の会・実行委員会

### ☆年額賛同金拠出のお願い

九条の会東京連絡会の活動を支えていただく年額賛同金の拠出のお願いの時期になりました。結成のとき10月からの会計年度としましたので、2013年度分ご納入のお願い文と郵便振替用紙を今号に同封しましたので、よろしくお願ひします。

発行 九条の会東京連絡会  
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-4-8 松村ビル4F  
TEL 03-3518-4866  
FAX 03-3518-4867  
ホームページ  
<http://www.9jo-tokyo.jp>  
メールアドレス  
[mail@9jo-tokyo.jp](mailto:mail@9jo-tokyo.jp)